

彙報

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 公開日: 2021-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/0000000373

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



所員

専任教員

渡辺 信一郎 WATANABE Shinichiro

役職：所長

専門：中国古代史、中国楽制史

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHI Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

田鍬 智志 TAKUWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

齋藤 桂 SAITO Kei

役職：講師

専門：音楽学・日本音楽史

客員教授

金剛 永謹 KONGO Hisanori

非常勤講師

蘭田 郁 SONODA Iku

担当：特別研究員

専門：近代芸能史

出口 実紀 DEGUCHI Miki

担当：特別研究員

専門：日本音楽史・民俗音楽

光平 有希 MITSUHIRA Yuki

担当：特別研究員

専門：音楽療法史・東西文化交流史・音楽学

〔非常勤嘱託員〕

齊藤 尚 SAITO Hisashi

担当：学芸員・司書

森 万由美 MORI Mayumi

担当：司書

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

〔客員研究員〕

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

2020年4月1日～2021年3月31日

研究課題：近代日本音楽の音源資料に関する研究

受入教員：竹内有一

神津 武男 KOZU Takeo

2020年4月1日～2021年3月31日

研究課題：人形浄瑠璃文楽の近世期上演記録データベース更新に係る新出資料調査と公開運用の研究

受入教員：竹内有一

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

2020年4月1日～2021年3月31日

研究課題：能の謡と囃子の歴史

受入教員：藤田隆則

丹羽 幸江 NIWA Yukie

2020年4月1日～2021年3月31日

研究課題：世阿弥時代の能と宗教儀式の音楽

受入教員：藤田隆則

遠藤 美奈 ENDO Mina

2020年4月1日～2021年3月31日

研究課題：仏教音楽（讃佛歌）の研究

受入教員：武内恵美子

平間 充子 HIRAMA Mitsuko

2020年4月1日～2021年3月31日

研究課題：古代の宮廷音楽に関する日中比較
一内宴・菊花宴における日本の女楽を中心に一

受入教員：武内恵美子

共同研究員

計 64 名（所員を除く外部研究員）。

氏名・所属先等は「活動報告 1」に掲載。

委託研究

2020 年度は、『『邦楽の友』の記事一覧の作成とデータベース化』を竹内直氏に、「常磐津家元所蔵オーブンリール音源のデジタル化」を小西志保氏に委託した。

出版物【雑誌】

『日本伝統音楽研究第』17 号（京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター、2020 年 12 月 10 日刊行）

<論文>

競馬節会行幸の舞楽《蘇芳菲》《狛龍》から因幡の麒麟獅子舞へ〔一〕 田鋤 智志

大正期から昭和初期における浪花節の地域受容 ― 多面化する興行― 藺田 郁

南山進流葦原寂照系における実唱上の呂律観 ― 鈴木智辨の音源分析― 吉岡 倫裕

古曲保存会制作レコードとその周辺 大西 秀紀

<研究ノート>

ビンササラ（ビンザサラ）の語源について ― 野曲「鬘多々良」の問題を含めて― 豊田 裕章

<報告>

崇仁・その祭り囃子・芸大を軸にした楽器づくりとその手法に関する研究 ― 地域のワザとの連携の未来をえがく― 竹内 有一、村井 陽平、小西 志保

<彙報>

活動記録 1 プロジェクト研究・共同研究

活動記録 2 特別研究員・客員研究員

活動記録 3 専任教員

大学院 音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻

出版物【書籍・CD・DVD】

日本伝統音楽研究センター研究報告 13「雅楽のイロイロを科学する本」

Toward a Scientific Study of the Gagaku World（京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター、2021 年 3 月 31 日刊行）



日本伝統音楽研究センターでは、日本伝統音楽研究センター研究報告 13「雅楽のイロイロを科学する本」（田鋤智志・上野正章・アンドレア ジョライ 編）を出版いたしました。

本体冊子の内容

①『琴歌譜』の解説 ― 平安初期大歌の旋律と和琴奏法 増田真結

Interpreting the Kinkafu: On the Melodies and Performance Techniques of Early Heian Ōuta Songs for the Zither Wagon MASUDA Mayu

②『源氏物語』に描かれる雅楽曲 ― 平安末期の様式で再現する 田鋤智志

Gagaku Pieces in The Tale of Genji: Musical Reenactments in the Style of the Late Heian Period TAKWA Satoshi

③『七十一番職人歌合』にみる音楽表現と『源氏物語』家塚智子

Representations of Music in the Shichijūichiban Shokunin Uta-awase and Genji Monogatari IETSUKA Tomoko

④『催馬楽略譜』『梁塵秘抄口伝集』『懷竹抄』『仁智要録』に基づく催馬楽《伊勢海》の再現 増田真結
Recreating the Saibara Ise no Umi on the

Basis of Saibara Ryakufu Ryōjin Hishō
Kudenshū Kaichikushō and Jinchi Yōroku
MASUDA Mayu

⑤ 掌中要録・続教訓抄から探る鎌倉期舞楽 — 《甘州》
全五帖と入綾の再現 田鍬智志

Investigating the Bugaku of the Kamakura
Period on the Basis of Shōchū-Yōroku and
Zoku-Kyōkunshō: The Five Sections and the
Iriaya of Kanshū TAKWA Satoshi

⑥ 四天王寺に伝わる舞楽曲「早甘州」—その成立と変
遷 平野みゆき

The Origins and Transformations of the
Bugaku Piece Haya-Kanshū, as Handed Down
by the Musicians of Osaka's Shitennōji
Temple HIRANO Miyuki

⑦ 経義と中世寺院の稚児、そして芸能 田鍬智志
Buddhist Ethics, Young Boys in Medieval
Temples, and the Performing Arts TAKWA
Satoshi

⑧ 地域に伝承される芸能を継承する課題 —鳥名子舞
の事例から得る示唆 今由佳里

Some Issues in the Transmission of Local
Performing Arts; Hints from the Example of
Tonako-Mai KON Yukari

⑨ 雅楽の独習 一本を見て龍笛で《越天楽》を練習す
る試みについて 上野正章

How to Teach Yourself Gagaku: Analysis of an
Attempt to Practice Etenraku with a Ryūteki
Using a "Teach Yourself" Book UENO
Masaaki

⑩ 音楽実践をもって徳を積む —平安後期・鎌倉期の
管絃講（往生講式）、そのころ 田鍬智志

Cultivating One's Virtue by Practicing Music:
At the Heart of the Kangenkō Ritual (Ōjō-
kōshiki) from the Late Heian to the Kamakura
Period TAKWA Satoshi

⑪ Hearing the Past, Sounding the Text: On
Gagaku as Acoustic Palimpsest Andrea
GIOLAI

過去を聴取する・テキストを音にする —音響的パリン

プセストとしての雅楽をめぐって アンドレア
ジョライ

⑫ 共同研究会の概要と活動のあゆみ

Summary of the Activities of the Research
Group

附属 CD の内容

T01 《茲都歌》～『琴歌譜』より～ (①増田論文関連)

T02 《歌返》～『琴歌譜』より～ (①増田論文関連)

T03 《石上流泉》～『三五要録』より～ (①増田論文
関連)

T04 《青海波》～楽一返・詠・垣代音取・詠・唱歌・
垣代音取・詠・唱歌・楽一返～ (②田鍬論文関連)

T05 《胡蝶楽》～破一返・急二返～ (②田鍬論文関連)

T06 《想夫恋》～楽二返（初返は箏独奏、第二返は和
琴と琵琶の二重奏）～ (②田鍬論文関連)

T07 《陵王》～荒序八帖・入破二返～ (②田鍬論文関
連)

T08 《酣醉楽》～破二返・急二返～ (②田鍬論文関連)

T09 催馬楽《伊勢海》～『催馬楽略譜』と『梁塵秘
抄口伝集』の調絃による～ (④増田論文関連)

T10 催馬楽《伊勢海》～『催馬楽略譜』と『懷竹抄』
の調絃による～ (④増田論文関連)

T11 催馬楽《伊勢海》～『催馬楽略譜』と増田真結
考案の調絃による～ (④増田論文関連)

T12 只拍子様《萬歳楽》～『仁智要録』『三五要録』
による～ (⑤田鍬論文関連)

T13 楽拍子様《萬歳楽》～『仁智要録』『三五要録』
による～ (⑤田鍬論文関連)

T14 音例 01 2019 年 1 月 8 日試奏 a (⑨上野
論文関連)

T15 音例 02 2019 年 1 月 8 日試奏 b (⑨上野
論文関連)

T16 音例 03 2019 年 1 月 8 日指導 (⑨上野論
文関連)

T17 音例 04 2019 年 1 月 8 日試奏 c (⑨上野
論文関連)

T18 音例 05 2019 年 2 月 13 日試奏 (⑨上野
論文関連)

T19 音例 06 2019 年 2 月 13 日《越天楽》(⑨
上野論文関連)

T20 音例 07 2019 年 2 月 13 日感想 (⑨上野論文関連)

T21 音例 08 2019 年 3 月 1 日《越天楽》a (⑨上野論文関連)

T22 音例 09 2019 年 3 月 1 日試奏 (⑨上野論文関連)

T23 音例 10 2019 年 3 月 1 日《越天楽》b (⑨上野論文関連)

T24 音例 11 2019 年 3 月 1 日唱歌 (⑨上野論文関連)

附属 DVD の内容

C01 双調《鳥破》三返・《鳥急》三返 (④増田論文関連)

C02 平調《萬歳楽》三返・《甘州》三返 ～箏『仁智要録』と『梁塵秘抄口伝集』にもとづく和琴推定創作による～ (④増田論文関連)

C03 楽拍子と只拍子の《甘州》～『類箏治要』『三五要録』『管眼集』『古譜律卷』『教訓抄』による～ (⑤田鍬論文関連)

C04 舞楽《甘州》全五帖・入綾 ～『掌中要録』『類箏治要』『三五要録』『管眼集』『古譜律卷』『教訓抄』による～ (⑤田鍬論文関連)

C05 山名神社天王祭舞もの《八初児》(⑦田鍬論文関連)

C06 式文 述意門・只拍子様《相佛戀(想夫恋)》二返 (⑩田鍬論文関連)

C07 式文 正修門第二・催馬楽《西方樂(伊勢海)》二返 (⑩田鍬論文関連)

C08 式文 正修門第三・只拍子様《陪臚》二返 (⑩田鍬論文関連)

C09 式文 正修門第五・声明《往生樂 合佛(八句念佛)》二返 (⑩田鍬論文関連)

C10 式文 正修門第六・《甘州》二返 (⑩田鍬論文関連)

C11 式文 正修門第七・楽拍子様《老君子》二返 (⑩田鍬論文関連)

C12 式文 正修門第八・催馬楽《西方樂(更衣)》二返 (⑩田鍬論文関連)

C13 式文 廻向門 (⑩田鍬論文関連)

出版物【DVD】

平安から唐へ 絲でたどるいにしへの韻 —琵琶・箏の古譜による琴曲の再現— (京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター、2021 年 3 月 31 日刊行)



日本伝統音楽研究センターでは公開講座における演奏、および講演を収録した映像ソフト(DVD)を発行いたしました。

本DVDは平成30年3月に開催された第54回公開講座『平安から唐へ 絲でたどるいにしへの韻 —琵琶・箏の古譜による琴曲の再現—』の模様、および追加解説の録画を収録。また、公開講座で配布された解説冊子も付属しています。

第一部【講演】唐代の音楽

日本伝統音楽研究センター所長：渡辺 信一郎

第二部【講演・復元演奏】日本の雅楽の古譜を用いた琵琶曲・箏曲の復元

講演・演奏 法政大学教授：スティーヴン・ネルソン
演奏 楽琵琶奏者：中村かほる

第三部【講演・復元演奏】日本の雅楽の古譜復元から唐代琴曲の再現へ

講演・演奏 日本伝統音楽研究センター准教授：武内恵美子

第四部【座談会・合奏】 渡辺 信一郎、スティーヴン・ネルソン、武内 恵美子、中村 かほる

【追加解説】日本の雅楽の古譜復元から唐代琴曲の再現へ

日本伝統音楽研究センター准教授：武内恵美子

語りの立体化 そして復曲 一狂言、能、題目立 一（京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究セン ター、2021 年 3 月 31 日刊行）



日本伝統音楽研究センターでは公開講座における演奏、および講演を収録した映像ソフト（DVD）を発行いたしました。

本 DVD は令和元年 11 月に開催された第 55 回公開講座『語りの立体化 そして復曲 一狂言、能、題目立』における上演部分の録画を収録。また、公開講座で配布された解説冊子も付属しています。

内容

1. 狂言《文蔵》（大蔵流）

出演：

茂山千三郎 能楽師（狂言方大蔵流）

松本薫 能楽師（狂言方大蔵流）

2. 復曲能《眞田》（観世流）

出演：

加藤眞悟 能楽師（シテ方観世流）

安田登 能楽師（ワキ方下掛宝生流）

河村晴久 能楽師（シテ方観世流）

地謡：

河村和貴 能楽師（シテ方観世流）

河村和晃 能楽師（シテ方観世流）

3. 題目立《石橋山》

出演：

題目立保存会（奈良県奈良市上深川町）

伝音セミナー

（※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、伝音セミナーをオンラインで実施した）

第一回「真言声明の楽譜の読み方について」

日時：令和 2 年 6 月 11 日 木曜日 14 時 40 分
～ 16 時 10 分

講師：藤田隆則（伝音センター教授）・吉岡倫裕（伝音センター・共同研究者）

真言声明で用いられる楽譜は、博士（はかせ）と呼ばれる線状の図形です。この博士は、角度によって音の高さを表わします。そこに、呂律の違いなどの様々な要因が加わり、博士の指し示す旋律が変わります。

今回の伝音セミナーでは、この博士の読み方を、真言声明南山進流の実唱を交えて説明します。また、声明家による解釈の違いや、現在伝承している真言声明三派の聴き比べもしていただきます。

第二回「真宗高田派に息づく天台声明」

日時：令和 2 年 7 月 20 日 月曜日 13:00 ～
14:30

講師：鷹阪龍哉（龍源寺住職・大学院音楽研究科日本音楽研究専攻第 1 期修了生） 聞き手：田鍬智志（日本伝統音楽研究センター）

声明（しょうみょう）とは、経論の偈文の一部などを、旋律にのせて唱える仏教声楽で、各宗派が独自の声明を伝承しています。天台宗と天台宗を母体とする諸宗派では、永く天台声明が唱えられてきましたが、天台以外の諸派では、次第に独自の声明が盛んになり天台声明の伝統が失われている宗派すらあります。しかし真宗高田派では今なお天台声明を日常勤行・法要等で唱えています。今回は京都太秦にある真宗高田派龍源寺を訪ね、ご住職の鷹阪龍哉師に、天台声明の魅力、父や師の思い出、伝承曲のこと、節まわしの特徴など、実演を交えてお話しいただきます。

第三回「声真似、節真似を聴く」

日時：令和 2 年 12 月 3 日 木曜日 午後 2 時 40 分～午後 4 時 10 分

講師：園田郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

声の質、いわゆる声色は日本の伝統音楽のなかで非常に重要な要素です。声色はジャンルや流派、さらには演者個人を特徴づける要因となってきました。それゆえ、そうした誰か／何かの声を真似て演じること自体もまた一つの芸として成り立っています。今回はそうした芸を集めた声真似、節真似のレコードを取り上げて、元になった声とも聞き比べながら芸能における「声」の魅力に迫ります。

第四回「京都六斎念仏の今：桂六斎念仏を中心に」

日時：令和2年 12月9日 水曜日 午後5時～午後6時30分

講師：志川真子（京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻2回生）

毎年お盆の時期に盛んに行われる京都の六斎念仏は、太鼓の早打ちやアクロバティックな獅子舞など、“魅せる”要素の強い演目が多いのが特徴です。現在京都市内で活動している13の保存会のうち、昨年14年ぶりに活動を再開した桂六斎念仏保存会を中心に、今年取材した9つの保存会の伝承の様子を紹介します。

第五回「音としての言葉：日本の近代文学と音楽」

日時：令和2年 12月17日 木曜日 午後2時40分～午後4時10分

講師：齋藤桂（日本伝統音楽研究センター講師）

明治以降、音楽と同じように、文学もまた、新しい形式やジャンルを開拓していきます。その中で、文学の重要な要素の一つである言葉のもつ「音」をどうとらえるかという問題は、音楽と文学の境界面にかかわるテーマとして、頻繁に議論されるようになります。本セミナーでは、同時代の録音・楽曲を聴きながら、近代日本の音声としての言葉がどのように考えられたのかを探ります。

第六回「雅楽譜と楽家」

日時：令和3年 1月7日 木曜日 午後2時40分～午後4時10分

講師：出口実紀（日本伝統音楽研究センター非常勤講

師）

昨年のセミナーでは近世の雅楽譜をとりあげて、唱歌や記譜の系統をご紹介しました。今回は、それら雅楽譜の特徴と楽家についてお話いたします。各楽家の楽譜からはどのような特徴がみられるのか、記譜と楽家の関係性について探っていきます。

※楽家…代々、雅楽の演奏・伝承を担ってきた家。多（おおの）家、東儀家、岡家など。

第七回「琴歌《高山》の打譜」

日時：令和3年 2月4日 木曜日 午後2時40分～午後4時10分

講師：張曦媛（京都市立芸術大学 大学院 音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻）

琴歌は古琴音楽の一つとして、長い歴史を持ち、中国では、今でも吟唱されているジャンルです。日本に残されている『東皐琴譜』という楽譜の掲載曲のひとつ《高山》に焦点をあてて、明清時代の琴歌を復元し、演奏してみたいと思います。古琴という楽器、また「打譜」という独自の慣習についても、紹介します。

第八回「治療と日常のあいだに響く音：「慰楽」を聴く」

日時：令和3年 2月18日 木曜日 午後2時40分～午後4時10分

講師：光平有希（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

治療に音・音楽を用いる、いわゆる「音楽療法」の実践が日本で花開いた近代。その音・音楽は「慰楽（いがく）」と名付けられ、さまざまな形で医療現場に導入されていきました。今より格段に医療技術が未発達であった時代、医学や病と対峙する医療従事者は「慰楽」に何を求め、どんな音・音楽が闘病生活を送る患者に寄り添ったのでしょうか。当時の病院で実際に用いられた音源を交えつつ、「慰楽」の実態に迫ります。

第九回「雅楽《越殿楽》のなぞ」

日時：令和3年 3月11日 木曜日 午後2時40分～午後4時10分

講師：田鍬智志（日本伝統音楽研究センター准教授）
越殿楽といえば、雅楽の中で最も知られている一曲でさまざまな場面で耳にする機会のおおい曲ですが、実に奇妙な曲です。この曲は、古典雅楽曲のなかでは最も「小規模な曲」というだけでなく、「平調、盤渉調、黄鐘調」の3つもの調で演奏され、かつ、「最後まで演奏したあと最初にかえって曲の途中で終わる」という特殊な形式となっています。なぜこのような他の曲にはない特徴がこの曲にだけみられるのでしょうか。その歴史を紐解いてみましょう。

第十回「秦王破陣楽の創成と展開」

日時：令和3年 3月18日 木曜日 午後2時40分～午後4時10分

講師：渡辺信一郎（日本伝統音楽研究センター所長）
唐王朝の創業者である太宗李世民（598～649）は、ほぼ10年をかけて隋末の群雄を平定していきました。このとき、そのありさまを民衆が歌いかつ舞いはじめたのが「秦王破陣楽」です。「秦王破陣楽」は、唐一代をつうじて大小さまざまな舞楽・楽曲に展開しました。日本にも伝来し、雅楽にも三種の破陣楽の舞楽名を残しています。日本に伝来する楽譜には「秦王破陣楽」も残っており、五線譜にもなっています。今回のセミナーでは、「秦王破陣楽」の歴史をたどるとともに、復元された音源を聴き比べて、秦王李世民的雄姿を想像してみたいと思います。

展 観

会場：新研究棟 7階展観ブース
2020年度は休止いたしました。

図書室

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展観などもおこなっています。（資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等）

・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

(2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

・本学の教職員（非常勤を含む）／学生
・調査研究のために利用を必要とされる方

(3) 開室日時と休室日

・開室日時 毎週水・木・金曜日 10時～17時
・休室日 月・火・土・日曜日、「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外の方の利用を休止しています。再開時期等、最新情報はweb サイトでご確認ください。

(4) 利用できるサービス

○閲覧

・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
・複写サービスは行っていません。

○視聴

・当室所蔵のCD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

・毎週水・木・金曜日 10時～17時

○その他

・本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ
室外貸出を行っています。詳しくはweb サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化とweb 公開

・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

・2020年度の図書室について

新型コロナウイルス感染拡大防止による措置として閉室および利用制限を行いました。

4月8日（水）～6月18日（木） 臨時休室

6月19（金）～9月29日（火） 臨時休室中の

特別利用を実施

学内者向けに事前予約制での利用を実施し、水・金曜日の13時から16時を特別利用日時に設定しました。感染拡大防止対策として、カウンターに飛沫防止のビニールシートを設置、換気を徹底するとともに、利用者の方々にはマスクの着用、手指消毒、体温測定、図書室利用票の記入などをお願いしました。

9月30日（水）～10月30日（金）短縮時間での開室

事前予約制を終了し、学内者向けに水・木・金曜日の13時から16時の短縮時間にて開室しました。感染防止対策は続けておこないました。

11月4日（水）～ 通常時間での開室

学内者向けに通常時間での開室を再開しました。引き続き感染防止対策をおこなっています。

学外の方にはご利用を休止しているため、ご迷惑をおかけしております。学外の方のご利用の再開につきましては、ホームページにてお知らせいたしますのでご確認ください。